

【令和3年バス事業年度】

公共交通(コミュニティバス・デマンドバス)の 状況について

令和3年12月
名寄市地域公共交通活性化協議会

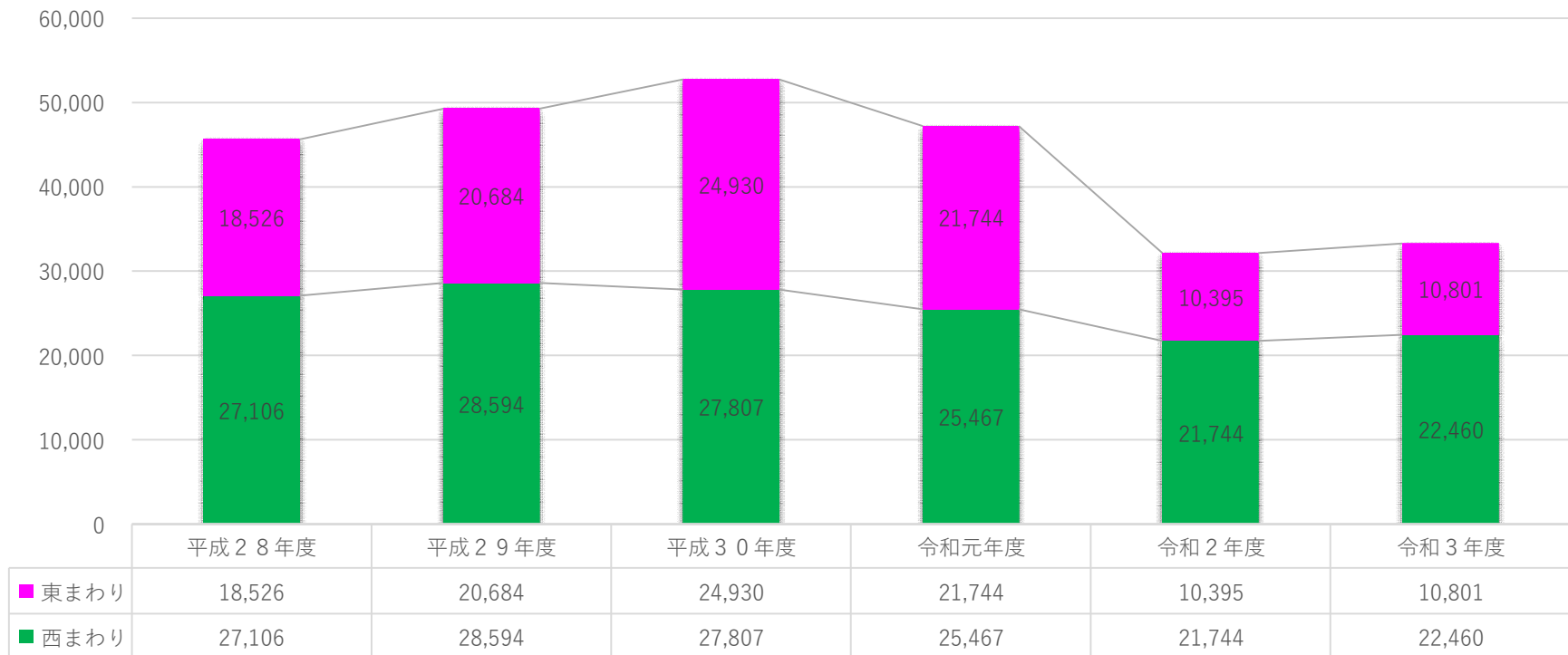
コミュニティバスについて

【概要】

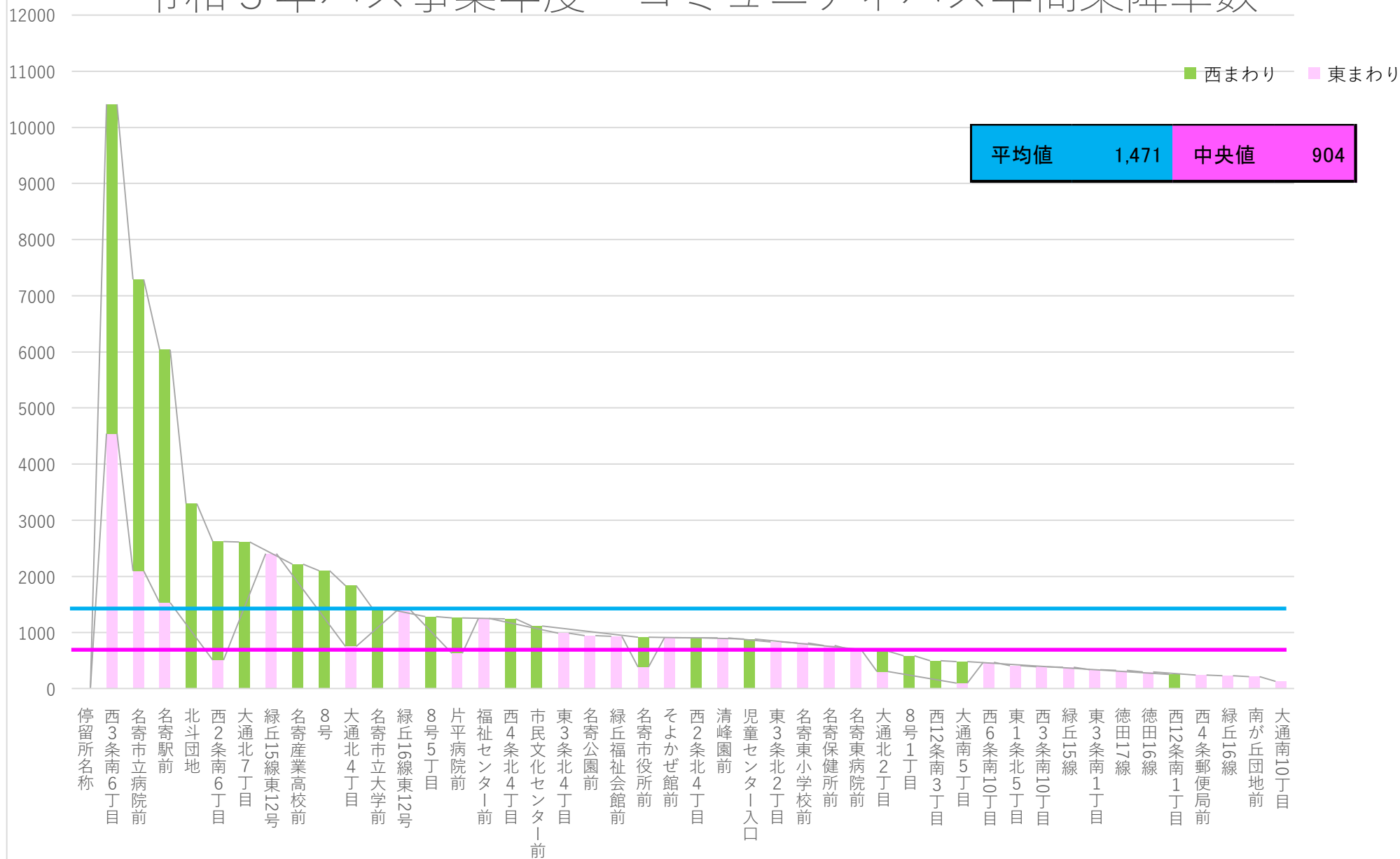
コミュニティバスの乗車人数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言などの影響などにより、依然として外出機会が戻らない状況となっています。そのため、令和3年バス事業年度のコミュニティバス乗車人数は令和2年度よりは若干は増加したものの、令和元年度と比較すると少ない状況となっています。特に東まわりの減少が著しい状況となっています。

令和4年バス事業年度以降については、緊急事態宣言の解除をはじめ、イベントやコンサートなど徐々にではありますが開催され始めたものの、依然としてバス乗車人数の戻りが鈍いと考えられるため、買い物や通院、通学といった市民の生活の足を確保するため計画的な運行が必要と考えられます。

バス事業年度別コミュニティバス乗車人数



令和3年バス事業年度 コミュニティバス年間乗降車数

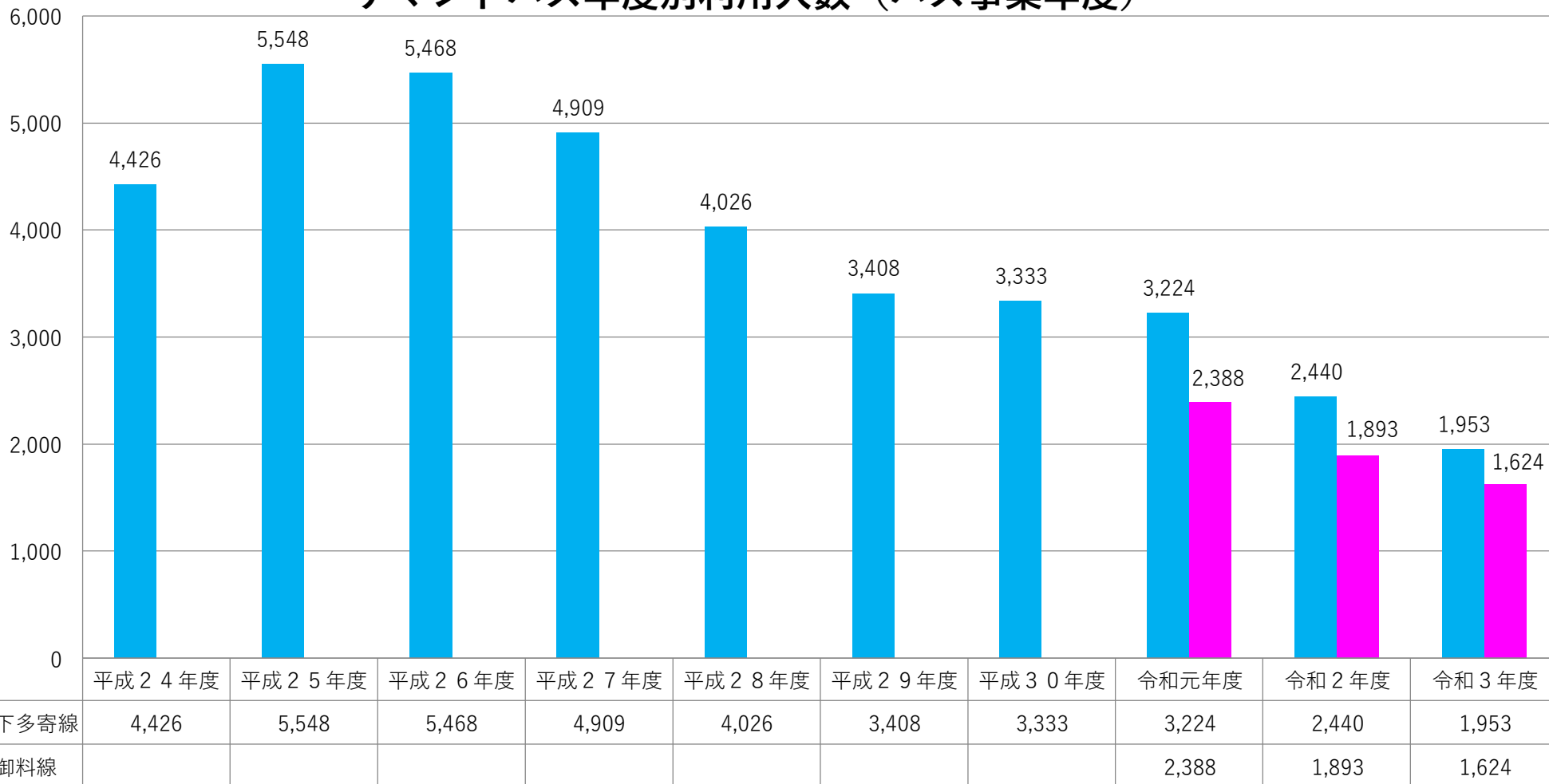


デマンドバスについて

【概要】

下多寄線については平成23年10月から、御料線については平成30年10月から、それぞれ運行を開始しており地域住民の生活の足として利用されています。令和3年バス事業年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて利用人数は昨年度を下回る状況となりましたが、引き続き地域住民の生活を支える手段として、計画的な運行が必要と考えられる。

デマンドバス年度別利用人数（バス事業年度）



デマンド交通の事業評価について

令和3年12月
名寄市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月18日

協議会名:名寄市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>名士バス(株)</p>	<p>下多寄線 西風連～風連駅～名寄駅</p>	<p>利用者数の維持・増加を図るため、毎年4月にアンケート調査を実施し、利用者満足度や、乗降場所指定場所の見直しに取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言などにより、積極的なモビリティマネジメントを展開することはできなかったが、アフターコロナに向けて新規利用拡大に努めている。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B ・デマンド型交通の利用者数の向上 月平均利用者数 目標270人/月 → 実績163人/月 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言などにより利用が大きく減少しており、目標値▲107人/月であった。 ・デマンド型交通の利用者満足度の向上 目標100% → 100% 令和3年4月実施のアンケート調査において、満足度の「満足」及び「やや満足」が100%を達成した。 ・効果 冬期間のみならず、通年の利用があり、住民への公共交通手段の提供が、適切に行われた。</p>	<p>運行から10年が経過し、地域への定着は着実に進んでいる。 しかし今年度も新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言が発出されたことによる外出自粛により、大きく利用者が減少する結果となった。来たるべきアフターコロナに向けて、あらためて老人クラブの会合等で新規利用者の拡大に努めていく。 利用者アンケート調査では、満足度が100%と非常に高いため、引き続き利用者のニーズに応じることができるよう、継続した運行を計画する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月18日

協議会名:名寄市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>名士バス(株)</p>	<p>御料線 風連日進～風連町内～道の駅</p>	<p>利用者数の維持・増加を図るため、毎年4月にアンケート調査を実施し、利用者満足度や、乗降場所指定場所の見直しに取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言などにより、積極的なモビリティマネジメントを展開することはできなかったが、アフターコロナに向けて新規利用拡大に努めている。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B ・デマンド型交通の利用者数の向上 月平均利用者数 目標200人/月 → 実績136人/月 新型コロナウイルス感染症の影響により利用が大きく減少しており、目標値▲64人/月であった。 ・デマンド型交通の利用者満足度の向上 目標100% → 100% 令和3年4月実施のアンケート調査において、利用者全員から「満足」という回答をいただいた。 ・効果 冬期間のみならず、通年の利用があり、住民への公共交通手段の提供が、適切に行われた。</p>	<p>運行開始から3年目を経過したところであり、引き続き地域への定着を図っていく必要がある。 現状、高頻度で利用いただいている利用者が数名おり、利用実績がそれなりに出ているものの、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言が発出されたことによる外出自粛により、利用者が伸び悩む状況となった。 そのため、アフターコロナに向けて、あらためて老人クラブ等へ周知するなど新規利用者の拡大に努めていく。 利用者アンケート調査では、満足度が100%と非常に高いため、引き続き利用者のニーズに応じることができるよう、継続した運行を計画する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月18日

協議会名:	名寄市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>名寄市は、北北海道の中央に位置し、面積は535.23Km²、人口26,629人(令和3年10月末日時点)の規模である。近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、クルマを所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。</p> <p>当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がしづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、当市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。</p>

名寄市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

名寄市では近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、クルマを所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。

当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、本市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

名寄市郊外部においては、定時定路線型の路線バスでは、非効率な運行となり、また、交通サービスレベルも低いと考えられる。さらに高齢者は、バス停留所までの移動距離に対して負担を感じており、デマンド型交通の導入によって、交通空白地帯を解消するとともに、「買い物」や「通院・通学」などの日常生活に必要な不可欠な「地域の足」を確保する。

【具体的目標】

デマンド型交通(下多寄線)の利用者数の向上 → 目標270人/月

デマンド型交通(御料線)の利用者数の向上 → 目標200人/月

デマンド型交通(下多寄線)の利用者満足度の向上 → 目標100%

デマンド型交通(御料線)の利用者満足度の向上 → 目標100%

令和3年度事業概要

下多寄線(西風連～風連駅～名寄駅)
運行回数 往路4回・復路5回

御料線(風連日進～風連町内～道の駅)
運行回数 往路5回・復路5回

【下多寄線】

利用料金 大人1名	風連 2区	下多寄 3区	下多寄 4区	下多寄 5区	風連 豊里	西風連	共和	豊栄
	風連地区まで	300円	300円	300円	300円	300円	400円	400円
名寄地区まで	600円	700円	700円	600円	500円	800円	400円	300円

地域公共交通の現況

- ・JR宗谷本線(名寄、風連、東風連、日進、智恵文、智北)
- ・名士バス(株)(市内5路線、郊外5路線)
- ・道北バス(株)(2路線)
- ・士別軌道(株)(2路線)
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)(郊外1路線)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、共同運行)
- ・スクールバス(7路線)
- ・宗谷バス(都市間バス1路線)

協議会開催状況

- ・令和2年5月29日 令和2年度第1回協議会を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
- ・令和2年12月3日 令和2年度第2回協議会を開催
デマンド交通及びUDタクシーの事業評価について
- ・令和3年6月21日 令和3年度第1回協議会を開催
令和3年度事業計画(案)について
令和3年度収支予算(案)について
公共交通利用促進策について
地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について
生活交通改善事業計画の策定について
名寄市地域公共交通活性化協議会設置要綱の一部改正について

【御料線】

●デマンドバス料金表

	日進・東生	旭	中央	緑町
対象エリア内の移動 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)
風連市街地までの移動 (高校生以下:200円)	400円 (高校生以下:200円)	300円 (高校生以下:150円)	250円 (高校生以下:130円)	200円 (高校生以下:100円)

令和3年度事業の実施状況

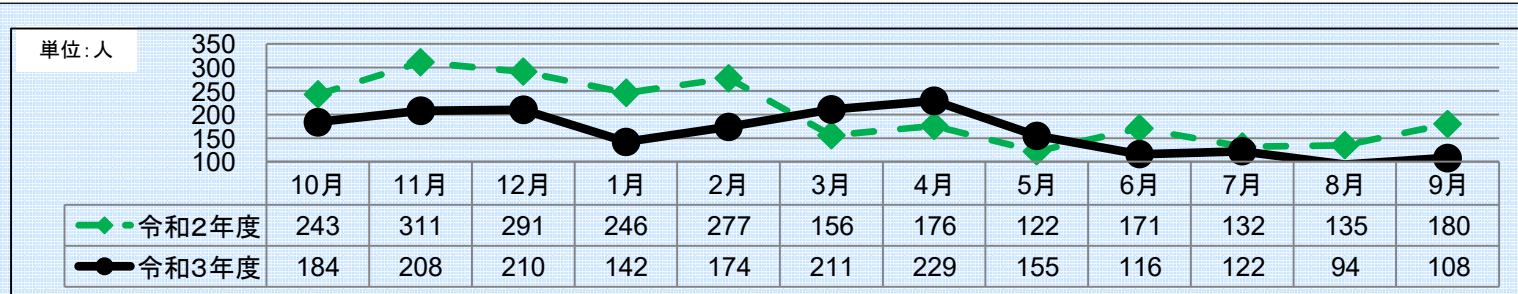
1) プロセス、創意工夫

- ・デマンド型交通については、利用者になじみのない予約型の運行システムのため、PRチラシやホームページでの周知を継続して実施を行った。
- ・とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響により老人クラブ等の会合で利用を呼びかけるといった機会が無かったため、広報誌を用いて公共交通全般に関する利用促進、周知啓発活動を行った(R3.7月号掲載)。広報誌には公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」を使用した。
- ・アンケート調査を実施し、乗降指定箇所の見直しを行った(R1.10に1箇所)。

2) 運行系統

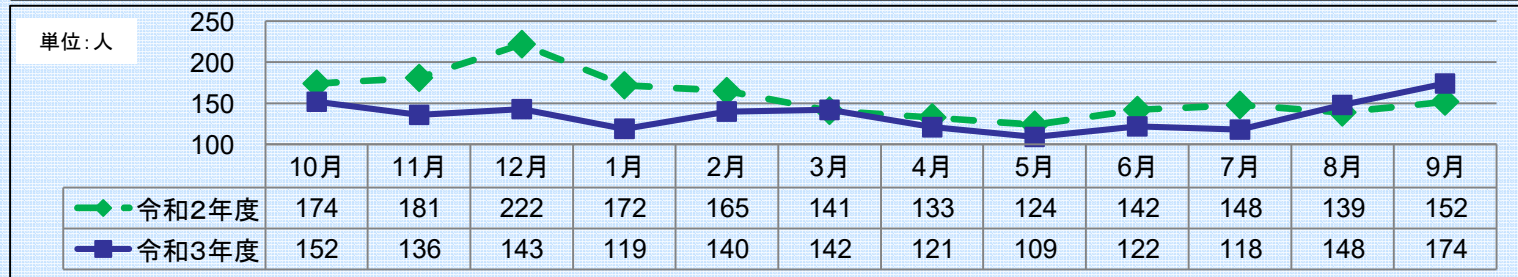


3) 利用実績



下多寄線

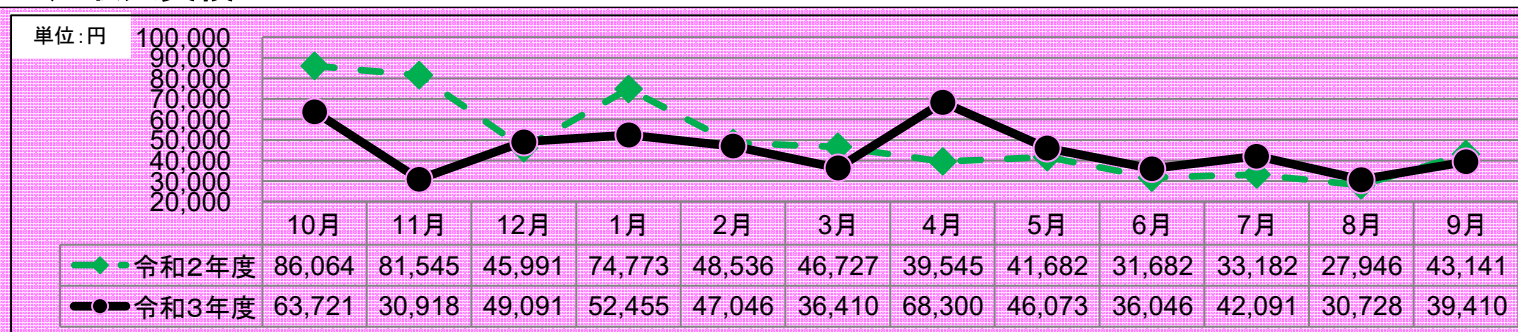
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
2,440	1,649	791
1,953	1,357	596



御料線

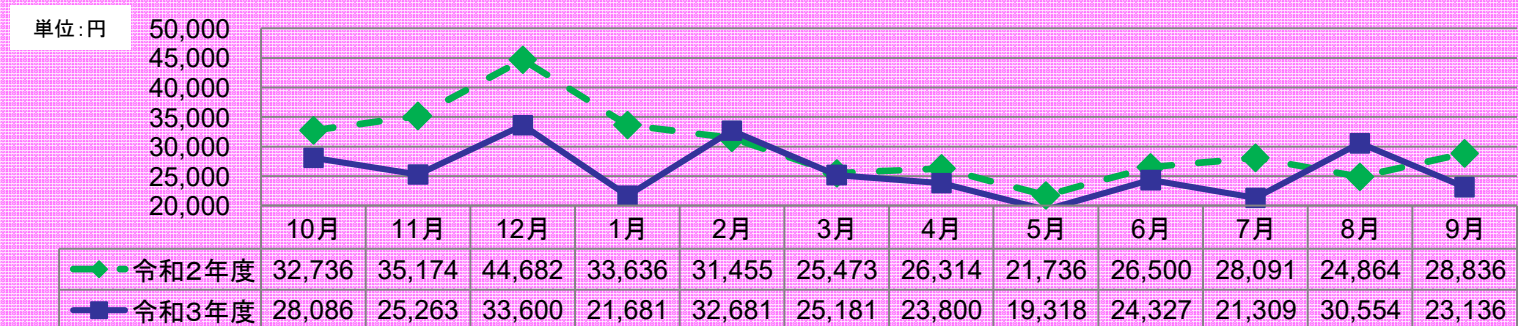
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
1,893	1,890	3
1,624	1,624	0

4) 収入実績



下多寄線

合計
600,814
542,289



御料線

合計
359,497
308,936

5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

・デマンド型交通の利用者数の向上

下多寄線

月平均利用者数 目標270人／月 → 実績163人／月
新型コロナウイルス感染症の影響のため利用が減少しており、目標値▲107人／月であった。

御料線

月平均利用者数 目標200人／月 → 実績136人／月
新型コロナウイルス感染症の影響のため利用が減少しており、目標値▲64人／月であった。

・デマンド型交通の利用者満足度の向上

下多寄線

目標 100% → 100%

御料線

目標 100% → 100%

令和3年4月実施のアンケート調査において、下多寄線及び御料線の満足度が昨年に引き続き100%となった。

・効果

冬期間のみならず、通年(下多寄線299日稼働、御料線338日稼働)の利用があり、住民への公共交通手段の提供が適切に行われた。

7) 事業の今後の改善点

【下多寄線】

運行から10年が経過し、地域への定着は着実に進んでいる。

しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言が発出されたことによる外出自粛により、大きく利用者が減少する結果となった。

来たるべきアフターコロナに向けて、あらためて老人クラブ等の会合等で新規利用者の拡大に努めていく。

【御料線】

運行開始から3年目を経過したところであり、引き続き地域への定着を図っていく必要がある。

現状、高頻度で利用いただいている利用者が数名おり、利用実績がそれなりに出ているものの、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急事態宣言が発出されたことによる外出自粛により、利用者が伸び悩む状況となった。

そのため、アフターコロナに向けて、あらためて老人クラブ等へ周知するなど新規利用者の拡大に努めていく。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄